

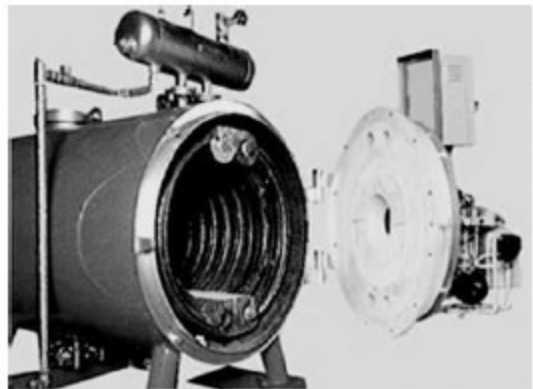
# 再生油ボイラで特許

## NCM傘下の日本汽缶

【さいたま】NCM（埼玉県川口市、猪野忠行社長）傘下のグループ企業が開発した再生油ボイラが特許を取得した。横型の開閉式のため掃除がしやすく燃焼効率にも優れる。ロシア・ウクライナ情勢による燃料価格の高騰で、低コストの再生油を燃料に使ったボイラの需要拡大が期待できることから「2023年は年40台、24年以降は年50台の販売を目指して再生油ボイラのシェア拡大を進める」（猪野社長）としている。

### 燃料高騰下、拡販狙う

特許を取得したのは日本汽缶（大分県臼杵NCMグループ企業の「市」）が製造販売する



「NBボイラー」。特許登録日は7月4日で特許番号は7099864。環境省

が先導的な低炭素技術を認証するL2テックにも選ばれた。18年に発売し、これまで約50台の販売実績がある。エンジンオイルや食用油などの再生油は、通常のボイラに使うA重油に比べて半値以下だが、スラッジ（燃えかす）やすすが発生してボイラ内に蓄積するため、従来の縦型ボイラでは内部の洗浄が難しく、長期間使用する

と燃焼効率が悪くなるなどの課題があった。開発したボイラは横型で、バーナー部分を装着したまま扉を開閉できるため、ボイラ内にたまったスラッジやすすを洗浄できる。蒸気発生量に応じて9機種あり、価格は1時間当たり1500円<sup>※</sup>の蒸気発生量のタイプ「NB1500」が1500万円（消費税抜き）。

ロシア・ウクライナ情勢などによりエネルギー価格が高騰していることから、特許取得を機に低コストの再生油が使える横型ボイラの拡販を積極化していく考え。倉庫製造やクリーニング工場などボイラを活用する業種に採用を働きかける。

特許を取得したNBボイラー。扉を開閉でき、ボイラ内のメンテナンスが容易

# N C M傘下の日本汽缶、再生油ボイラで特許取得 燃料高騰下で拡販狙う

[ツイート](#)
[シェアする 2](#)
[LINEで送る](#)

(2022/8/30 05:00)



特許を取得したNBボイラー。前扉を開閉でき、ボイラー内のメンテが容易

AD

ポータブル型吸引式  
4成分ガス検知器

MODEL :  
**GX-Force**

詳しくはコチラ▶



**R** 理研計器株式会社  
RIKEN KEIKI

【さいたま】N C M（埼玉県川口市、猪野忠行社長）傘下のグループ企業が開発した再生油ボイラが特許を取得した。横型の開閉式のため掃除がしやすく燃焼効率にも優れる。ロシア・ウクライナ情勢による燃料価格の高騰で、低コストの再生油を燃料に使ったボイラの需要拡大が期待できることから「2023年は年40台、24年以降は年50台の販売を目指して再生油ボイラのシェア拡大を進める」（猪野社長）としている。

特許を取得したのはN C Mグループ企業の日本汽缶（大分県臼杵市）が製造販売する「NBボイラー」。特許登録日は7月4日で特許番号は7099864。環境省が先導的な低炭素技術を認証するL2テックにも選ばれた。18年に発売し、これまで約50台の販売実績がある。

エンジンオイルや食用油などの再生油は、通常のボイラに使うA重油に比べて半値以下だが、スラッジ（燃えかす）やすすが発生してボイラ内に蓄積するため、従来の縦型ボイラでは内部の洗浄が難しく、長期間使用すると燃焼効率が悪くなるなどの課題があった。

開発したボイラは横型で、パーナー部分を装着したまま前扉を開閉できるため、ボイラ内にたまったスラッジやすすを洗浄できる。蒸気発生量に応じて9機種あり、価格は1時間当たり1500キログラムの蒸気発生量のタイプ「NB1500」が1500

万円（消費税抜き）。

ロシア・ウクライナ情勢などによりエネルギー価格が高騰していることから、特許取得を機に低コストの再生油が使える横型ボイラの拡販を積極化していく考え。食品製造やクリーニング工場などボイラを活用する業種に採用を働きかける。

(2022/8/30 05:00)

[ツイート](#)
[シェアする 2](#)
[LINEで送る](#)
[マイクリップ登録する](#)
[紙面イメージで見る](#)
[記事を利用する](#)